

今、福島県にあるひろばのスタッフとして 出来る事は何だろうか？

小磯 厚子（福島県）

今、福島県にあるひろばのスタッフとして出来る事は何だろうか？

震災後、広場を利用しているママ達から、「ひろばにいて良かった」「ひろばがあつて良かった」との声をたくさん頂きました。それは、やっとの思いでたどり着いた自宅が足の踏み場も無い状況だったり、恐怖の中、子どもと二人きりで、揺れが収まるのを待つ体験をしたからだと思います。その為、震災後、『人を、仲間を、安心を』求め親子がひろばへ戻ってきました。

一見、白河の広場は元の状態に戻った様に見えます。しかし、実際には多くのことをして、自分が体験した事をコントロールする子どもの姿、放射線の問題も様々出ていました。しかし、一年半経った今、いつものように子どもの成長の話、夫の話などで笑顔が絶えない広場のどこかであと、不安や心配を言葉にしてスタッフに伝えてくれるママがいます。本当はみんな不安なのです。心配なのです。自分の判断、決定が本当に良かったのかと。子どもの健康を本当に守れているのかと。大きくなっていくにあわなにかしら。結婚できるのかしら。考えても答えが出ない事も分かっています。でも、考えてしまうのです。実は、

課題を抱えています。それは目に見えない放射能汚染への何とも言えない恐怖からではないでしょうか。広場の中では津波や放射能汚染によりここへ避難して来た人、不安だけどここにいる人、大丈夫だと思いいここにいる人、ここ以外の土地に避難していて、たまに戻ってくる人、様々な状況の親子が同居しています。夫や両親と同じ方向を向く事が出来ず、悩み苦しむママ達も大勢いました。それでも、自分たちで、より良い方向を見つけ歩き始めたのです。

震災後半年くらいは、震災時の様子をそれぞれ話し共感し合うママ達や、地震ごっ私も心配です。答えは出せていません。私自身は子どもが高校生なのをいいことに、子どもに「どうしたいか」一緒に考えてもらいました。だから、ちよっぴりが楽なのです。でも、広場に来る多くの親子は夫婦で、家族で決めた事が子どもにとつて良かったのかと今でも立ち止まり考える事があるのです。不安な気持ちを話してくれてありがとう。広場のスタッフとして、同じように子どもを持つ親として、一緒に悩み共に励ましあい、時には泣いたり、笑ったりしながら一緒に子育てしていく事が今、私に出来る事です。

震災以来、多くの方々にご支援頂いておられます。本当にありがとうございます。この状況がいつまで続くか分かりませんが、周りの人への感謝の気持ちと自分たちの自然治癒力を信じ進んで行こうと思います。

